



星野リゾート
ホシノリゾート

OMO5 東京大塚
オモファイブ トウキョウオオツカ

ADF リサーチレポート
星野リゾート OMO5 東京大塚
伊豆田 幸世



↑ロゴは東京オリンピックのロゴも
担当した野老 朝雄氏のデザイン
デザイン：野老 朝雄氏 (TOKOLOCOM)

CONCEPT & LOCATION

星野リゾートが都市観光を考えるととき...

JR 大塚駅北口に新しくできた星野リゾートの新ブランドホテル「OMO(おも)」。
いままで、星野リゾートという国内外のリゾートでのおもてなしというイメージが強かったが、2016年の星のや東京オープンに続き、
東京大塚で、「星野リゾート OMO5 東京大塚」を2018年5月より展開している。かねてより都市部への進出は考えていたというが、
おもてなしのマスター星野リゾートが都市部で、そして新業態のホテルを作るとなると単なるビジネスホテルでは終わらない。

寝るだけでは終わらせない、旅のテンションを上げる都市観光ホテル

OMO ホテルは現在旭川と大塚の二拠点で展開しているが、OMO ブランドがターゲットとしているのが「都市を観光する人々」だ。
とはいえ、レジャー目的で東京へ訪れるゲストはほとんどが日中はレジャー施設やショッピングへ出掛け、ホテルには寝に帰るだけ、というパターンが多い。
そこで、OMO ホテルが掲げたコンセプトが「寝るだけでは終わらせない、旅のテンションを上げる都市観光ホテル」。
レジャーやショッピングだけでは知り得ない、ご近所のローカルでディープな楽しさをゲストに少しでも触れてもらおうと、
ローカルとゲストをつなぐ、橋渡しのような旅先案内人を買って出ているのが OMO のテーマである。



LOCATION MAP

大塚は JR 山手線、東京メトロ丸の内線、
そして都電荒川線（東京さくらトラム）が接続している。
第二次世界大戦前はデパート、花街もあり非常に
賑わっていた街でもある。



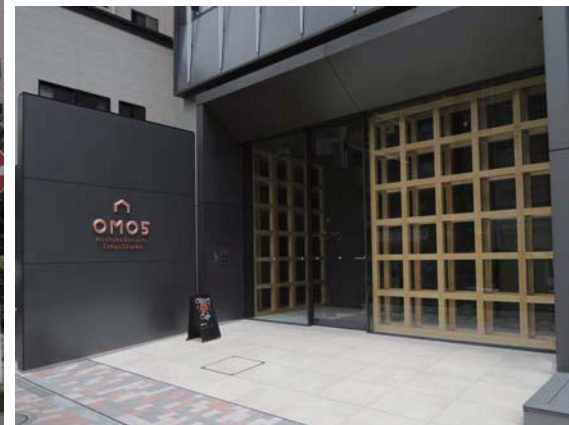
都電が通る、どこか郷愁的な
東京の風景が今も見られる大塚



立地は大塚駅北口ロータリーの目の前



OMO5 東京大塚の入居
するビル。チェックイン
フロアは4F。



1F エントランスはシンプルかつスタイリッシュな
デザインながら日本のおもてなしを感じる門構え

「旅のテンションを上げる」仕掛け **Go-KINJO**

Go-KINJO MAP



1F エントランスからチェックインフロアのある4Fへ到着すると、チェックインフロントへ向かう通路でまず目に飛び込んでくるのがW3mxH2mの黒板にカラフルに詳細が描きこまれた地図。これはOMOホテルのサービスのひとつ「Go-KINJO MAP」と呼ばれるもので、スタッフの方々が地元大塚の魅力あるスポットやお店の情報を発信しゲストとのコミュニケーションを図る掲示板のような役割になっている。



おすすめのお店情報は短冊にQRコードと共に紹介されている。QRコードを読み取れば位置情報がわかる仕組み。

おすすめのお店情報は常にアップデートされる。



Go-KINJO MAPの周りには大塚や日本の食文化について書籍が並ぶ。

ご近所専隊 OMO レンジャー

無料



GREEN

OMO GREEN
初めの一歩を一緒に散歩で魅せる大塚の街



RED

OMO RED
はしご酒専門 OMOの酔いどれ師範代



YELLOW

OMO YELLOW
LOVE 家業! 古き良きグルメ食いしん坊



BLUE

OMO BLUE
大塚のニューウェーブクールなグルメハンター



PURPLE

OMO PURPLE
ナイトタイムはお任せ♪アフター5ときめき王子

Go-KINJO MAPに関連付けて、OMOホテルが提供するのが友人のようなガイドが地元を案内してくれるように大塚散策に連れ出してくれる「ご近所専隊 OMO レンジャー」のサービス。レンジャーはGreen/Red/Yellow/Blue/Purpleの5名おり、例えばGreenは「大塚散歩」、Redは「はしご酒専門」、Yellowは「古き良きグルメ巡り」など、ディープ大塚の世界へ踏み込む一歩を手助けしてくれる。(Green以外は有料 1人2時間 1,000円) 取材時に体験したGreenレンジャーによる大塚散策の様子は最後の頁に続く→



グッズ販売コーナーには地元大塚の老舗和菓子やOMOホテルオリジナルの染め物のハンカチなどが並びローカルの技術を伝えつつ遊びどころ溢れる展開。

ローカルと旅人の交流地点 OMO ベース 4F パブリックエリア

斜めに走るホルーパーがアクセントになっているパブリック空間
日本らしさを意識した欄間をイメージしている



カフェ兼ラウンジとチェックインフロントが混在するパブリックスペース。
ここではOMOベースと呼ばれ、ゲストのベース基地として観光の作戦会議をたててもらう場所としても機能する。カフェスペースは朝食から夜はアルコールまで提供するオールデイダイニング。
空間構成としては、ダイニングスペースのような長テーブルがあるほか、ラウンジエリアにも居心地の良さそうな大型ソファがあるなど、気分はまるで我が家のような。

既に地元商店の間ではコーヒーを飲みに通われている常連客も多く、旅人とこの地で長く暮らす人々を繋ぐ憩いの場として稼働しはじめている。
ホテルの企画としても、OMOベースを使って地元のイベントである阿波踊りを一緒に楽しむ計画や、近所の商店がもっと身近に感じられすぐに遊びに行きたくするような企画を準備している。



壁のない空間の中に仕切りとして設けた扉付きの家具を背にチェックインスペースを設けている。中は収納になっており機能的。自動チェックイン機も取り入れ、スペースは最小限にとどめている。



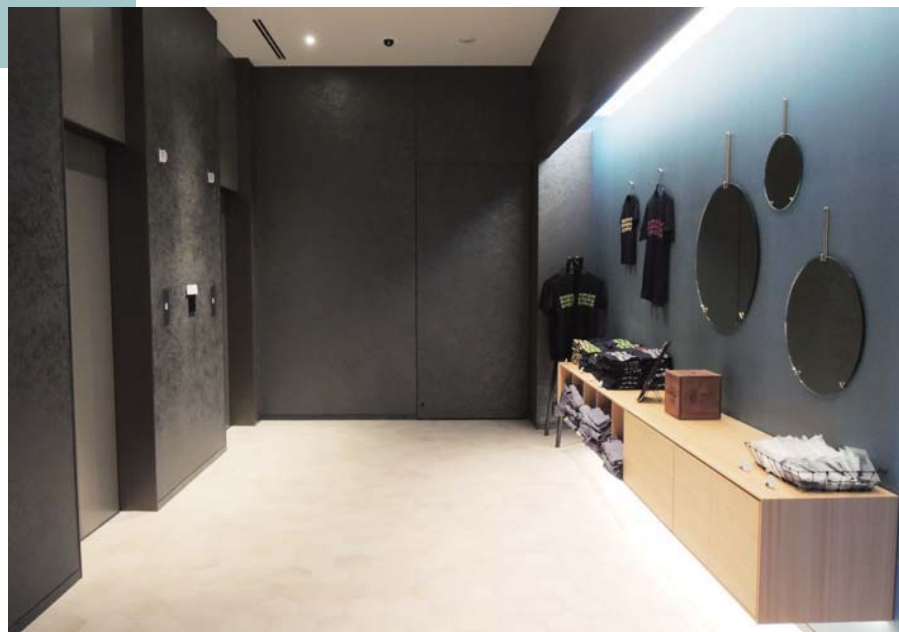
大塚駅前が見渡せるカウンターはゲストの憩いの場でもある。



やさしい木目がまるで我が家にいるようなアットホームさを演出するキッチンスペース。床はモルタルに金物の目地でアクセントを。

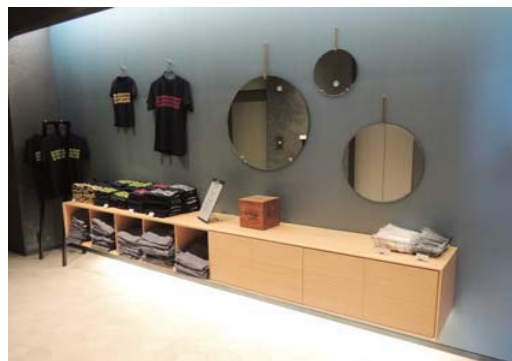
テンションが上がる朝食メニュー「ヴォロヴァン」。フランスの家庭料理でサクサクのパイに好きな具材を詰め込める。

旅のテンションを上げる 小さな仕掛け その他パブリックスペース



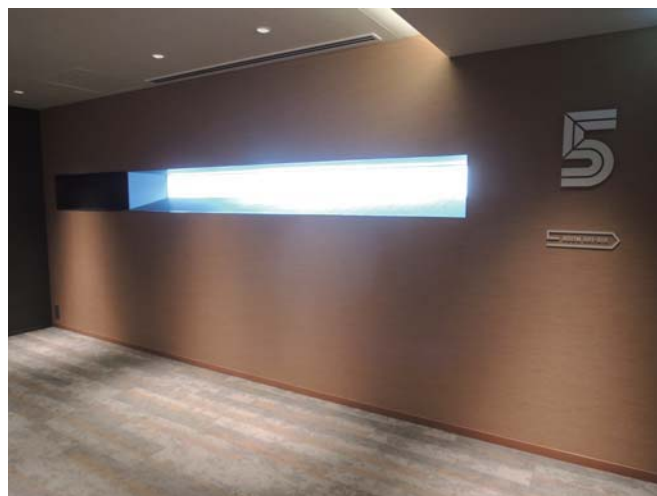
画期的なパジャマレンタル

観光で訪れるゲストは通常、自分のパジャマを持ってきているケースが多い。そのため、各部屋の収納スペースを最大限広く使うためにも OMO ホテルではパジャマはレンタル式。それも、客室へ行くエレベーター前に、まるでショップのようなたたずまいで可愛い OMO T シャツパジャマを並べているから面白い。レンタルフィーは ¥200/着を横の回収箱へ入れる仕組み。



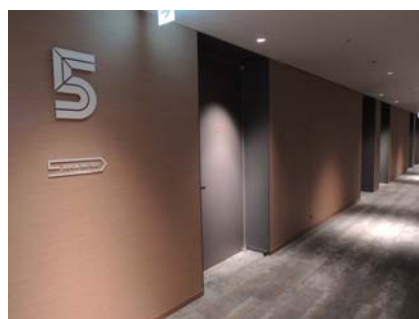
パジャマが並ぶ木棚は宙に浮かせ、下には間接照明。棚上に飾られた大小さまざまなラウンドミラーが印象的なアクセントになっている。

ランドリールーム内に設置されたグッズ販売機。コーヒーやお茶、こだわりの化粧水などのアメニティも必要であればここで購入できる。

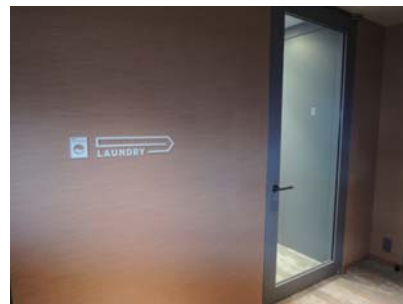


客室フロアの小さな意匠

客室は 5F から。客室へ向かうエレベーターを下りるとまず目に飛び込んでくるのが長方形の奥行きのあるウィンドウ。ちょうど目線高さになっており、まるで巨大オペラガラスから大塚の街を眺めるよう。



客室フロアの壁面は落ち着いたオレンジブラウンを基調とした織物のようなテクスチャーのクロスを使用。巾木も併せて赤茶カラーに統一。



5Fにあるランドリールーム



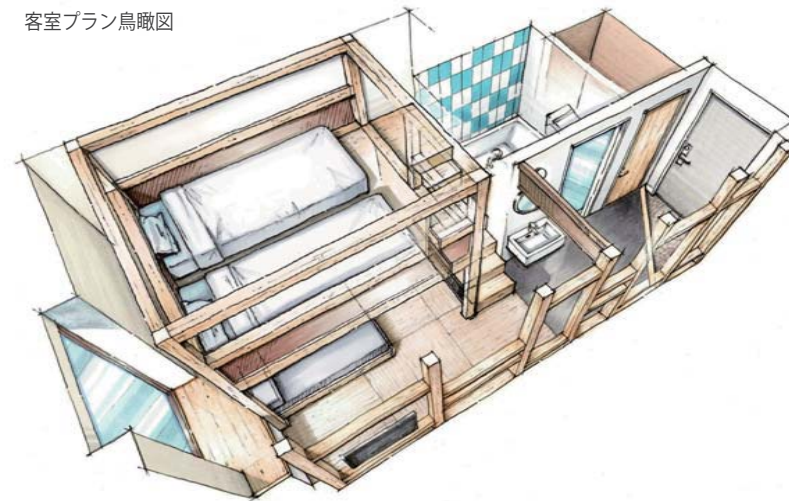
旅のテンションを重視した 客室「YAGURA Room」

デザインコンセプトは「檜(やぐら)」

「寝るだけでは終わらせない、旅のテンションを上げる都市観光ホテル」をコンセプトに掲げる OMO ホテルがとり着いた客室デザインコンセプトが、「檜(やぐら)」。客室はほぼ全て同じサイズで一種類。1部屋 19㎡とシティホテルの標準サイズでありながら、高さ 2.9m というやや高め天井設定により就寝エリアを2階に持っていくことで、全く狭さを感じない。さらには壁面に設置された棚やテレビ、2段ベッド下のくつろぎソファエリアなど、わくわくする仕掛けが随所に散りばめられている。

設計は、星のや軽井沢など星野リゾートの設計に携わってきた東 環境・建築研究所での経験を経て 2013 年に独立した佐々木達郎氏。緻密な工夫もりだくさんのデザインがコンペ形式で募った設計案の中から見事採用された。

客室プラン鳥瞰図



← ↓部屋の中に進むと右手にやぐら寝台、左手には歯ブラシやタオルなどがコンパクトかつ楽しげに並んでいる。



→洗面スペースは部屋に露出した形式だが、写真右のようにスクリーンを下ろし、この空間を脱衣所として使うこともできる。



↓江戸時代の箆笥階段にヒントを得た階段には収納スペースが。3組目の布団や給湯コーナー、セーフティBOXなどニッチ空間を無駄なく使っている。



客室の定員は3名。

中2階のベッドスペースの下に設けられたこの特大ソファスペースは3人目のベッドとしても利用できる。靴を脱ぎ畳を踏むスタイルもやすらぎを感じさせる。



↑やぐら寝台と名付けられた中2階のベッド。天井高さまで伸びた窓からは外光も注ぐ。

→ブルーの市松模様タイルがポップジャパニーズを感じさせる浴室。タボも肩まで浸かれる日本仕様。



ご近所専隊

OMO レンジャーといく大塚めぐり



さわやかな笑顔がまぶしい Green レンジャー

ディープ大塚への橋渡し役 OMO レンジャー

OMO ホテルが提供するサービスの中でも最も特徴的なのが前述 (P.02) の Go-KINJO コンテンツ。とくに、OMO レンジャーのガイドによる大塚の各種魅力を探索できるサービスは、大塚に馴染みの薄いゲストもすっかり地元気分を味わえる秀逸なエンターテインメントとなっている。取材時には、5名のレンジャーの中から、Green レンジャーの大塚散歩 (無料) を体験させていただいた。



まずは都電「大塚駅前」駅へ！



ディープ大塚へようこそ
サンモール大塚商店街

人気クラフトビール店のスタッフさんはレンジャーとも仲良し！



小路をちょっと入るとそこは昭和の風景がそのまま残るディープ大塚でした。



↑揚げたてのコロッケを出してくれるお肉屋さん



→新鮮な魚と威勢の良いかけ声がどこかなつかしい魚屋さん



↑高架から「アレ」が見えるとは！大塚の人々はみな人懐っこくてあたたかい方ばかり。約1時間の充実のお散歩コースで既に大塚の魅力のとりこに！皆さまありがとうございました。



←大塚・巣鴨の氏神「天祖神社」



←レンジャーも仲良しおそば屋さん



↑店主がフレンドリーに話しかけてくれる昔ながらの天ぶら屋さん

←ママもすっかり OMO ホテル お馴染みの地元スナック



→レトログルメでは都内でも既に有名というお店も。



←大塚にはライブハウスも点在。大塚はかつて花街だったこともあり芸能を応援する風土があるのではとレンジャーさん。



DATA Information

Location: 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2丁目2-6-1

Operator: 星野リゾート (OMO ホテル)

Architects & Interior Design: 株式会社佐々木達郎建築設計事務所

ROOM : 125 rooms 19 m² / 部屋 定員 3 名 / 部屋

Open: 2018.5.9

Room Rate: JPY7,000 ~ (2 名 1 室利用時 1 人あたり料金・税+サービス料込)

※東京都宿泊税がかかる場合あり

URL: <https://omo-hotels.com/otsuka/>

